

生きることも死ぬことも

滋賀から問う

# 新たな自治のカタチ



滋賀県知事  
三日月 大造

11/15 水 16:50~  
@京都大学公共政策大学院

# 1. はじめに

## 自己紹介・滋賀県の紹介

# 2. 滋賀県の取組

自然、社会・経済、ひと

# 3. 滋賀県の交通政策

滋賀だからこそ新たな挑戦！

# 滋賀県知事 三日月大造

生年月日 1971年5月24日 **現在 52歳**

座右の銘 着眼大局 着手小局  
一人の百歩より、百人の一步

趣味 ウォーキング

交通政策は  
ライフワーク

略 歴 一橋大学経済学部卒業

石弘光（元 政府税制調査会会長）ゼミ

～ 滋賀を離れ東京に。いつか滋賀のために役立つ人間に ～



# 社会人スタート

滋賀から問う

新たな自治のカタチ

## J Rに入社



駅員、運転士として  
現場で働く喜び、苦勞、大切さ



男女が対等になっていない  
現実変えるために労働組合  
青年女性委員長に

## J Rを退社、政治の世界に



「残りの人生は人のために生きよう」  
決意のJR退社、松下政経塾へ

## 衆議院議員へ



衆議院議員（4期連続当選）  
国土交通副大臣などを経験  
国会対策委員会などで“調整役”



# 滋賀県知事に



滋賀から問う

新たな自治のカタチ

## 1期目 (2014.7~)

初登庁



京滋ドクターヘリ運航開始



情報発信拠点「ここ滋賀」  
東京日本橋にオープン

新学習船「うみのこ」就航



## 2期目 (2018.7~)



「ビワイチ」が国のナショナル  
サイクルルート第1号に指定



感染症との闘い

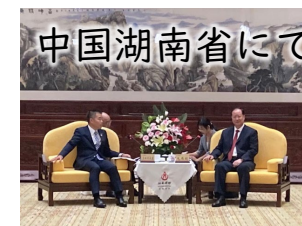


全国植樹祭を甲賀市で開催

## 3期目 (2022.7~)



国際交流も本格的に再開



中国湖南省にて



米国ミシガン州知事来県

世界情勢の大きな変化の中でも、  
ローカルトウローカルのつながり

駐日ウクライナ大使来県



ガザ地区難民女性を  
支援している社会起業家と面談

# 大きな役割

## 関西広域連合長

2022年12月に関西広域連合長に就任  
大きな役割を担うことに

関西広域連合長に就任



(公社)2025年日本国際博覧会  
協会 副会長 就任

(公財)ワールドマスタースゲームズ  
2021 関西組織委員会 会長就任



大阪・関西万博 関西パビリオンの  
起工式に関西広域連合長として出席

## 全国知事会

2023年7月に新設された「子ども・子育て  
政策推進本部」では本部長に就任

全国知事会の副会長も  
務めています



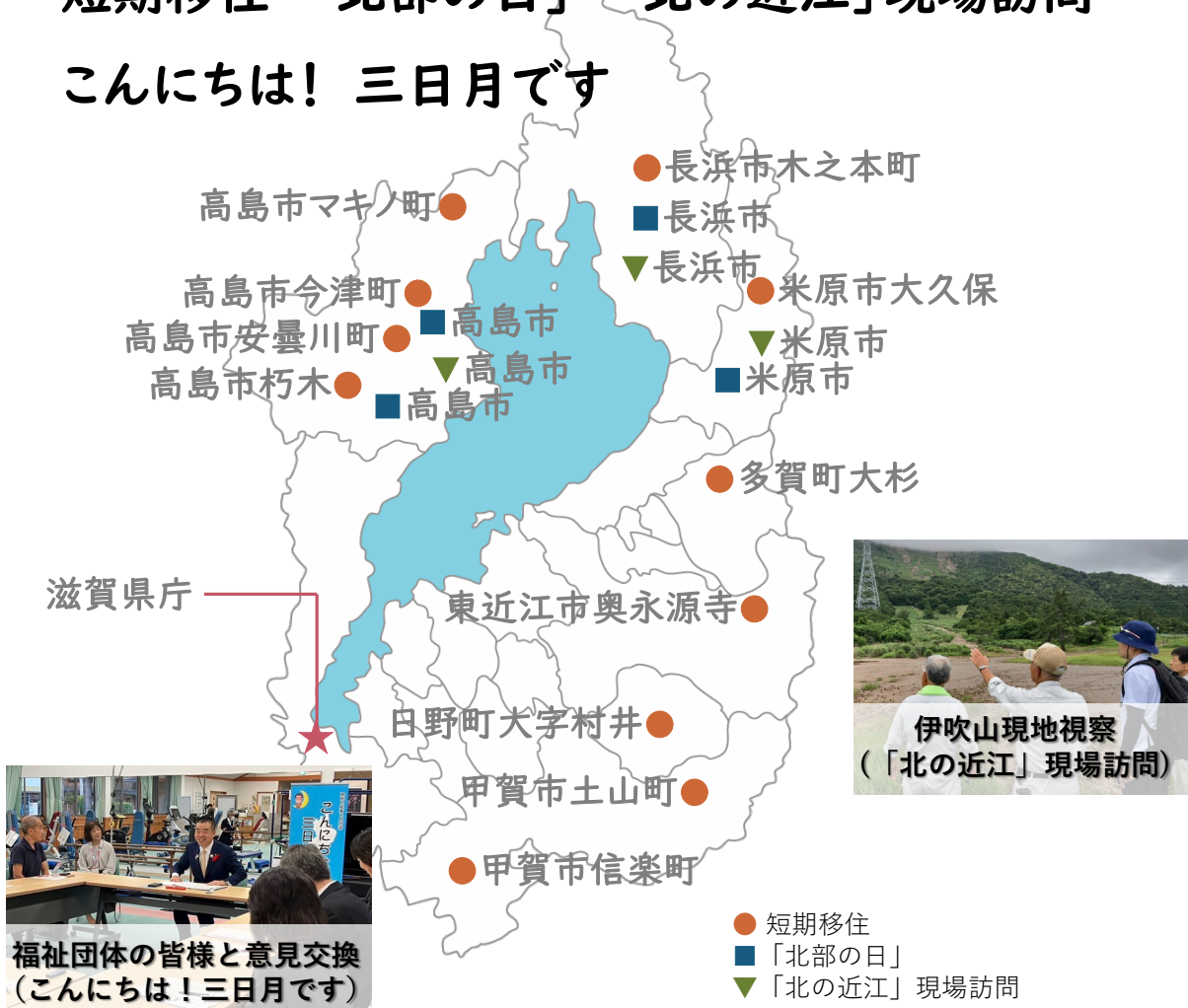
子ども・子育てにやさしい  
社会を実現するため、こども  
家庭庁に提言



## 現場主義

短期移住・「北部の日」・「北の近江」現場訪問

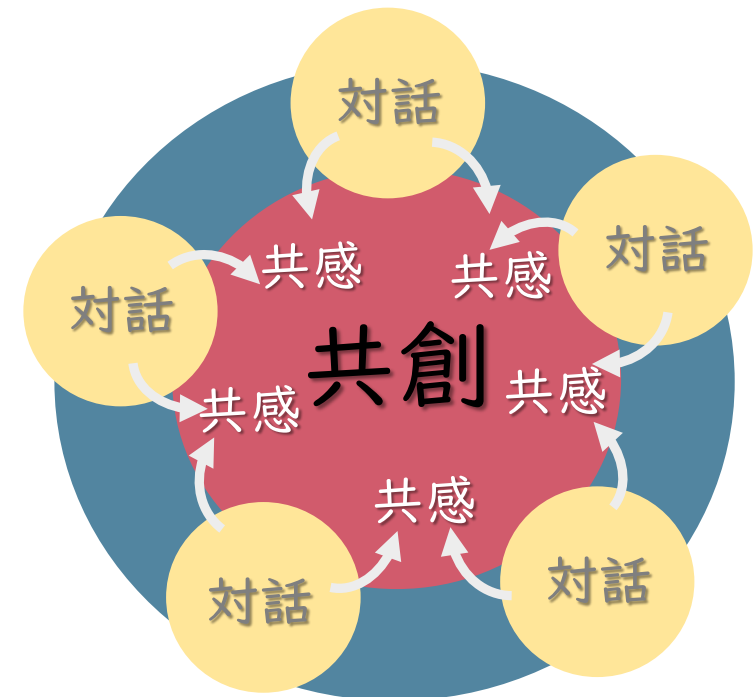
こんにちは！三日月です



## 対話と共感から

協働を基本に  
異なる視点、多様な価値観

応答性のある対話  
滋賀の“新たな魅力や価値”を共に創る



# 滋賀県の紹介

✓ 面積・人口とも日本の1/100

[面積:4,017km<sup>2</sup> 人口:1,406千人]

✓ 県中央にマザーレイク「琵琶湖」

Mother Lake

「国民的資産」であり  
世界有数の古代湖

◆ 琵琶湖は県の面積の1/6

◆ 森林は県の面積の1/2

日本列島の中央

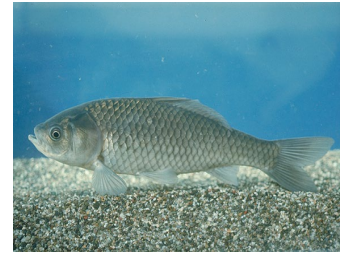
琵琶湖の貯水量: 約 275億m<sup>3</sup>

★ 1,450万人の水道用水

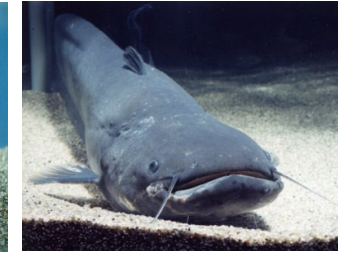
滋賀から問う

新たな自治のカタチ

## 生物多様性 (60以上の固有種)



ニゴロブナ[固有種]



ビワコオオナマズ[固有種]



水鳥

## 水産業



セタシジミ[固有種]

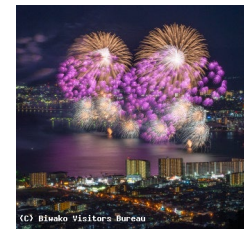


小鮎



ビワマス[固有種]

## 観光・レジャー



びわ湖大花火大会



ビワイチ(サイクリング)



湖水浴



# 歴史

滋賀から問う

新たな自治のカタチ

## 世界に開かれ、世界とつながり、 「世界とのかかわり」を大切にしながら発展してきた滋賀県

### 古代

渡来人・文化、仏教伝来  
都(近江大津宮、紫香楽宮)



©Biwako Visitors Bureau

#### 石塔寺(いしどうじ)

- 7世紀に聖徳太子が創建。最古最大の石造三重石塔
- 『日本書紀』によると「白村江の戦い」(663年)で敗れた百済から700人余りが蒲生野に移住



©Biwako Visitors Bureau

近江大津宮の跡地に創立された近江神宮

#### 近江大津宮

- 日本・百済の連合軍、「白村江の戦い」で大敗北。唐・新羅から侵攻される危機に
- 国外情勢等に対応するため、天智天皇、国土防衛の根幹として内陸部の近江大津へ遷都(667年)

### 中世

惣村(自治)  
近江を制する者は天下を制す  
(主要街道、水運など交通の要衝)

#### 織田信長

- 安土山に「安土城」を築き、イエズス会宣教師らとも交流を持っていた



日本初の基督教の神学校(セミナリヨ)

#### 伝教大師・最澄

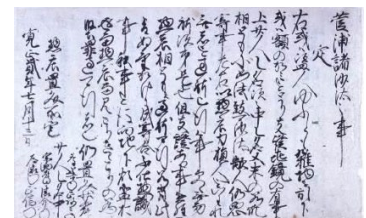
- 当時、中国・唐に渡り密教を学び、帰国後、比叡山で天台宗を開いた



世界文化遺産 延暦寺

#### 国宝 菅浦文書(もんじょ)

- 村の自主運営に加え、立法、警察や司法、徴税(年貢をまとめて領主に届ける)まで村人が実施



先人たちが広い視野で「世界とのかかわり」のなかで発展させてきた歴史を有する滋賀県 9

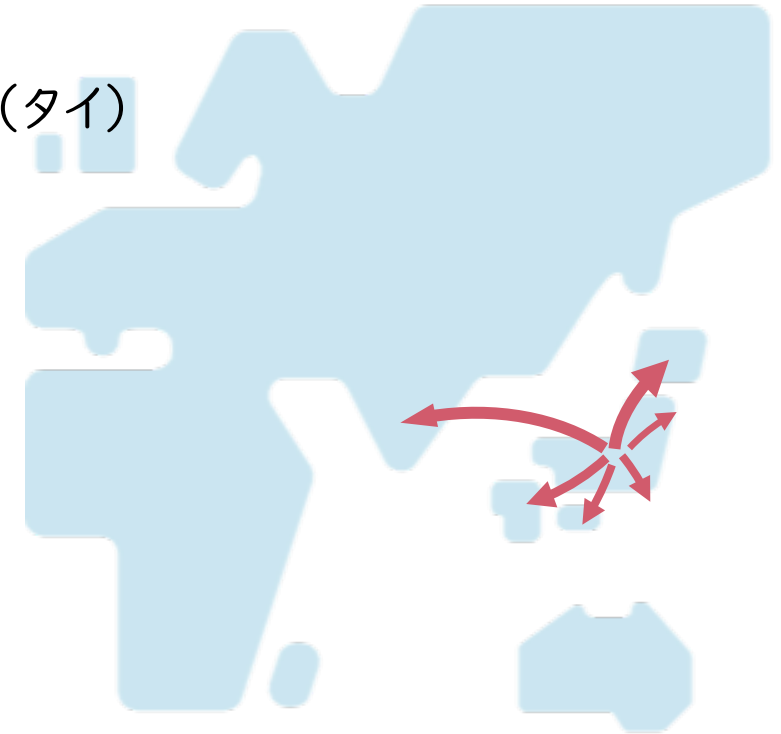


## 世界に開かれ、世界とつながり、 「世界とのかかわり」を大切にしながら発展してきた滋賀県



近江商人

- 行商から身を起こして、全国各地に商圏を拡大
- はるか海外にも進出…安南（ベトナム）やシャム（タイ）
- 「三方よし」  
⇒ SDGs、ステークホルダーキャピタリズム
- 近江商人を起源にもつ企業  
トヨタ自動車 伊藤忠商事 丸紅  
日本生命 ワコール ヤンマー  
西武グループ 高島屋 …他多数!



「世界」「世界史」から滋賀県を俯瞰してみよう!

「世界」から選ばれる滋賀をつくろう!

…と呼びかけています

# 産業の集積

滋賀から問う

新たな自治のカタチ

！ 日本一のモノづくり県。第2次産業の割合は全国1位

！ 世界のモノづくりを牽引するマザー工場、研究開発拠点が集積

話題の「アレ」も  
すべて滋賀県産

**日本コカ・コーラ**  
製品の原液を守山工場で製造  
全国のボトリング工場へ

**P&G野洲工場**  
世界中にファンを持つ「SK-II」  
作っているのは世界でも滋賀工場だけ

**コクヨ工業滋賀**  
誰もがお世話になった  
キャンパスノートは滋賀生まれ

《高島市》ホリゾン、京セラAVXコンポーネンツ安曇川、新旭電子工業等

《大津市》  
カネカ、堀場製作所、島津製作所、近畿分析センター、東レ、東レエンジニアリング、東洋紡、日本精工、大塚製薬、オプテックス、エリーパワー等

《草津市》オムロン、ダイキン工業、パナソニック、日東電工、住友精密工業、キャノンマシナリー、ニプロ、タカラバイオ、メタルアート等

《守山市》旭化成、グンゼ、日本コカ・コーラ、キャノンマシナリー等

《栗東市》イシダ、積水化学工業、日清食品、リチウムエナジージャパン等

《野洲市》村田製作所、オムロン、京セラ、P&G、中国塗料等

《湖南市》タキロンシーアイ、ディーアクト、ネオス、タキイ種苗等

《甲賀市》住友電工プリントサーキット、NECライティング、日立建機ティエラ、西川ローズ、トヨタ紡織滋賀、大原薬品工業、シオノギテクノアドバンスリサーチ等

《長浜市》長浜キャノン、三菱ケミカル、ヤンマー、兵神装備等  
《米原市》ヤンマー、三菱ケミカル、童夢等

《彦根市》SCREENホールディングス、フジテック、ブリヂストン、パナソニックくらしアプライアンス社等

《愛荘町》Joyson Safety Systems Japan、コクヨ工業滋賀、TBカワシマ、日本電産等

《甲良町》古河AS等

《多賀町》ダイニック等

《近江八幡市》

三菱ロジスネクスト、日本カーボン、たねやグループ等

《東近江市》京セラ、村田製作所、旭化成住工、ノエビア、パナソニックホームズ、日本電気硝子、東洋製罐、シキボウ等

《日野町》ダイフク、ファンケル美健等

《竜王町》ダイハツ工業、積水樹脂、ムラテックメカトロニクス、コマツ滋賀工場、アインズ、東洋電機製造等

# 1. はじめに

自己紹介・滋賀県の紹介

# 2. 滋賀県の取組

自然、社会・経済、ひと

# 3. 滋賀県の交通政策

滋賀だからこそ新たな挑戦！

- ① 自然が基盤にあり、
- ② その上に社会・経済、
- ③ そして私たち「ひと」の暮らしがある



# 自然

滋賀から問う

新たな自治のカタチ

## 赤潮発生

## 立ち上がる滋賀県民

### 1977年 琵琶湖からのSOS



皆で同じ課題・難局を共有し、乗り越えよう  
と取り組んだ「自治」の結晶

1981年

7月1日を  
「びわ湖の日」に



自分事として受け止め、自分たちで何とかしようと  
知恵を絞り、できることを考え、実際に行動!



そして今では…



## マザーレイクゴールズ (MLGs) の推進



### 琵琶湖版SDGs



Mother Lake Goals

変えよう、あなたと私から

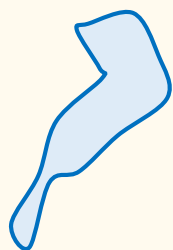
- 自治と連携の精神を引き継ぐため、琵琶湖に関わる人の思いを広く集めて、**みんなで策定**
- 2030年の持続可能な社会へ向けた**13のゴール**

「豊かな魚介類を取り戻そう」「多様な生き物を守ろう」  
「びわ湖を楽しみ愛する人を増やそう」など

## 湖沼の重要性を世界に!

湖は持続可能な社会の象徴

### 琵琶湖は地球環境を見通す窓



- 「湖沼」を世界の水を巡る議論の主要課題へ位置付けること  
[湖沼問題の主流化]に向けて、**国内外で議論を主導**
- 第19回世界湖沼会議(ハンガリー)にて、「**世界湖沼デー**」  
**制定への賛同を呼びかけ**

滋賀県とミシガン州の交流55周年記念  
Shiga and Michigan 55 Years Anniversary Meeting



湖沼の重要性を世界に訴えていく  
ことでミシガン州知事と合意

## 世界農業遺産

本里湖に育まれる 漁業と農業が織りなす  
**琵琶湖システム**



- 古くから営まれてきた琵琶湖と共生する農林水産業の仕組みが「琵琶湖システム」として2022年7月に**世界農業遺産に認定**

※ 伝統的な琵琶湖漁業、環境こだわり農業、魚のゆりかご水田、水源林保全などの「循環型」の生業システム



## CO<sub>2</sub>ネットゼロの取組

### しがCO<sub>2</sub>ネットゼロムーブメント

- 県民、事業者等多様な主体と連携
- 経済（金融）**を原動力に

滋賀銀行提供のカーボンプレジットを使用し、フェスで排出するCO<sub>2</sub>をオフセット



### 滋賀県サステナビリティ・リンク・ボンド

- 2022年、目標とその達成状況に応じた対応を連動させたサステナビリティ・リンク・ボンドを発行
- 地方公共団体による発行は国内で初めて
  - 発行額50億円に対し約10倍のオーダー
 (2023年度も発行)

ESG（環境・社会・ガバナンス）に関連する目標を設定し、その達成状況に応じた対応をあらかじめ設定して発行する債券

- ① 自然が基盤にあり、
- ② その上に社会・経済、
- ③ そして私たち「ひと」の暮らしがある





## コロナ禍からの経済回復の支援

### ✓ 中小企業・商工業・農業・地域特産・水産業・畜産業・観光業

滋賀県をフィールドに実証実験を行う事業者や中小企業、スマート農業への支援など、様々な産業分野への支援

### ◆ オリジナルいちご品種

滋賀県産



### ◆ 10年ぶりの近江米新品種



## 魅力ある公園づくり

### ✓ ~水と緑と人でつながるしがの公園~ 「THE シガパーク」

県全体がひとつの大きな公園



- コロナ禍を経て、公園の価値を再認識
- 適度な“疎”の空間で人が集い憩う場、身近な自然と触れ合い学びを得られる場
- 部局横断で“公園”の価値・魅力向上に取り組む

### ✓ 琵琶湖岸の駐車場有料化の社会実験

- GW期間に1回目実施
- 利用者に対するアンケート調査の結果、95%が有料化賛成
- 11/24から2回目実施予定



## 近江の城の魅力発信

県内1,300以上の城

### 「幻の安土城」復元プロジェクト

- ✓ 令和の大調査に着手
- ✓ デジタル技術を活用した見える化
- ✓ 「安土山図屏風」探索
  - ローマ教皇に贈呈、バチカンに飾られる
  - その後、行方不明に



バチカンで「安土山図屏風」探索に向けた調査協力を依頼

## 彦根城世界遺産登録に向けた取組加速

- ✓ 2023年9月 文化庁からユネスコに世界遺産事前評価申請書提出
- ✓ 2025年 国内で推薦決定
- ✓ 2027年 世界遺産登録へ



## 地域公共交通の充実

社会・経済の基盤

後ほど、詳しくお話します！





# 全体像

滋賀から問う

新たな自治のカタチ

- ① 自然が基盤にあり、
- ② その上に社会・経済、
- ③ そして私たち「ひと」の暮らしがある



## ひとづくり

### ✓ 滋賀県初の高専づくり

- モノづくり県の滋賀。DX等の社会変革への対応が急務
- 先進的技術を社会に実装できる、技術力、価値創造力、実践力を兼ね備えた人材を育成
- 2028年の開校を目指して準備

### 15歳の新たな選択肢



### ✓ 人材確保の取組



ベトナムジョブフェアにて来場者へ滋賀をPR

県内企業におけるベトナム高度人材の受入れを促進するため、ベトナム・ハノイ工科大学※、滋賀経済産業協会と覚書を締結

※ベトナム最大の技術系総合大学

## 外国人の受入れ・多文化共生の取組も強化

## 2025年国スポ・障スポ大会へ



湖国の感動 未来へつなぐ

わたSHIGA輝く  
国スポ・障スポ 2025

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

- 1981年の「びわこ国体」以来44年ぶり2回目の開催。準備を加速
- 競技力向上、次世代アスリート育成の取組を推進



国スポ・障スポの主会場「平和堂HATOスタジアム」

# 子ども・子ども・子ども

## ✓ みんなでつくった「すまいるアクション」

子どもの笑顔を増やすための「子ども目線」の行動様式「すまいる・あくしょん」を策定



<p>すまいる・あくしょん 01</p> <p>感染症を正しく知って行動しよう</p>	<p>すまいる・あくしょん 02</p> <p>今の気持ちを伝えよう</p>	<p>すまいる・あくしょん 03</p> <p>自分も周りの人も大切に</p>	<p>すまいる・あくしょん 04</p> <p>頼れる人や場所を見つけよう</p>
<p>すまいる・あくしょん 05</p> <p>身体を動かしてしっかり遊ぼう</p>	<p>すまいる・あくしょん 06</p> <p>わくわく感動する気持ちを持とう</p>	<p>すまいる・あくしょん 07</p> <p>オンラインを上手に活かそう</p>	

小・中・高・大学生、未就学児の保護者へアンケート調査

31,320人

## ✓ 全庁をあげて子ども施策を進める体制づくり 「滋賀県子ども政策推進本部」立ち上げ



- 一人ひとり主体としての子ども
- 社会の一員としての子ども
- 未来への希望としての子ども

## ✓ 子どもの医療費助成の拡充

高校生世代の医療費を県が負担することなど地域差なく医療サービスを受けられる仕組みを市町と一緒につくる

高校生世代までの医療費助成は都道府県の中で先進的！  
滋賀県はそれまで小学生までが対象…  
職員からの発案で高校生世代までの仕組みづくりを決断

子どものために、子どもと共に作る滋賀に！

## 死生懇話会

- ✓ 人生100年時代の到来
- ✓ 多死社会の訪れ

でも…

「死」や「生」について話す機会は多くはない

2020年度

## 死生懇話会

を設置



「死」を真正面から考えることで、  
限りある「生」をより一層充実させるための  
 ヒントを得る

## 熟議の滋賀づくり

- ✓ 「死生懇話会」の開催
- ✓ 庁内ワーキンググループ
- ✓ 取材・ヒアリング活動
  - ・ 不登校の子どもの居場所づくりをしているNPO
  - ・ 滋賀県フリースクール等連絡協議会
- ✓ トークイベント
- ✓ 死生懇話会サロン
  - ・ 生きづらさと居場所 ～「弱さ」を認め合う社会～
  - ・ 死んでいるとはどういう状態 ～VR時代の吊い～

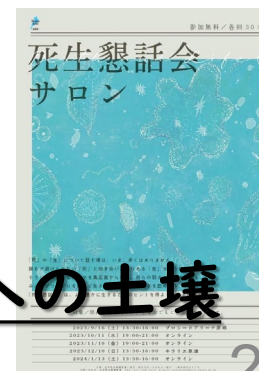
など

など

生きづらさ、弱さ、

孤独・孤立、幸せ・豊かさ…

県民とともにつくる、未来への土壌





✓ 歩みを進める中で、今大切にしたい視座・姿勢

## 「弱さ」

3年にも及ぶ感染症との闘い。未知、未曾有の事態のなか、判断の連続。

そして得た気づき。「**実は弱さが強さなのではないか。**」

「弱さ」を大切に、それを隠さず、表現し、支え合っていける行政・地域のあり方を追求。



✓ 何のために誰のために共に働くのか

## 滋賀県庁のパーパス

県庁のパーパスは？ 問われたらなんと答えられるだろう？  
若手職員を中心に改めて考え、議論。

パーパスを表す言葉を探す中で、

**大切にしたい思い**を再確認。



2023.9 若手・中堅職員と意見交換

※パーパス

- ・自社の存在意義を明確化し、社会に与える価値を示す
- ・心の内側から湧き出てくる強い思い、志

職員と議論し、  
職員と共に、  
一歩ずつ、着実に





# 1. はじめに

自己紹介・滋賀県の紹介

# 2. 滋賀県の取組

自然、社会・経済、ひと

# 3. 滋賀県の交通政策

**滋賀だからこそ新たな挑戦！**

Q: 社会には課題が山積。未来を見据えて地方では何ができるか？

滋賀から問う

新たな自治のカタチ

みんなで議論して仕組みをつくることが重要！

公論熟議で地域の課題、活性化を考える  
“より良き自治”の追求

そのなかの重要なテーマとして「交通政策」



ここからは、パネルディスカッションにもつながる交通政策についてお話しします

天  
の時

全国:コロナ禍を経て地域公共交通がホット 이슈に

- ✓ JR東日本、JR西日本が、ローカル線に関する課題認識や収支状況を初公表
- ✓ 「地域公共交通活性化再生法」改正

滋賀県:コロナ前から地域公共交通が切実な課題

- ✓ 近江鉄道線再生(廃線危機)という課題に直面
- ✓ 2018年「近江鉄道の存続の在り方を議論する検討会議」設置
- ✓ 2019年11月以降は県、沿線5市5町、事業者による法定協議会において検討
- ✓ 2020年3月 「全線存続」で合意
- ✓ 2024年度からの上下分離による運行開始を目指し準備

全国に先駆けて、住民が危機感を持ち、合意形成



# 地の利

## 滋賀県(近江)は古来、交通の要衝

- ✓ 交通の利便性によって栄え、「交通=文化・経済の発展の源」という意識が根付いている地域

(びわ湖の水運、主要街道、鉄道網、高速道路網など)



## 歴史に見る自治の気概

- ✓ 瀬田川 川浚え (江戸時代)

(農民が水位が上昇するとなかなか引かない瀬田川の川浚えを望み、100年以上何代にもわたり行動)

- ✓ 石けん運動 (昭和50年代)

## 私(知事)の使命として

- ✓ 鉄道会社での勤務経験(駅員、運転士)
- ✓ 国土交通副大臣としての経験。国会対策委員会等で“調整役”
- ✓ 「交通政策基本法」の成立にも関わる

(交通政策に関する基本理念や国・自治体等の役割を定めた法律)



知事としての初の公務は  
奇しくもJR湖西線の式典

天  
の時

地  
の利

人  
の和

▶ 3つ揃った滋賀県だからこそできる 新たな挑戦！

昨年7月の知事選挙公約に

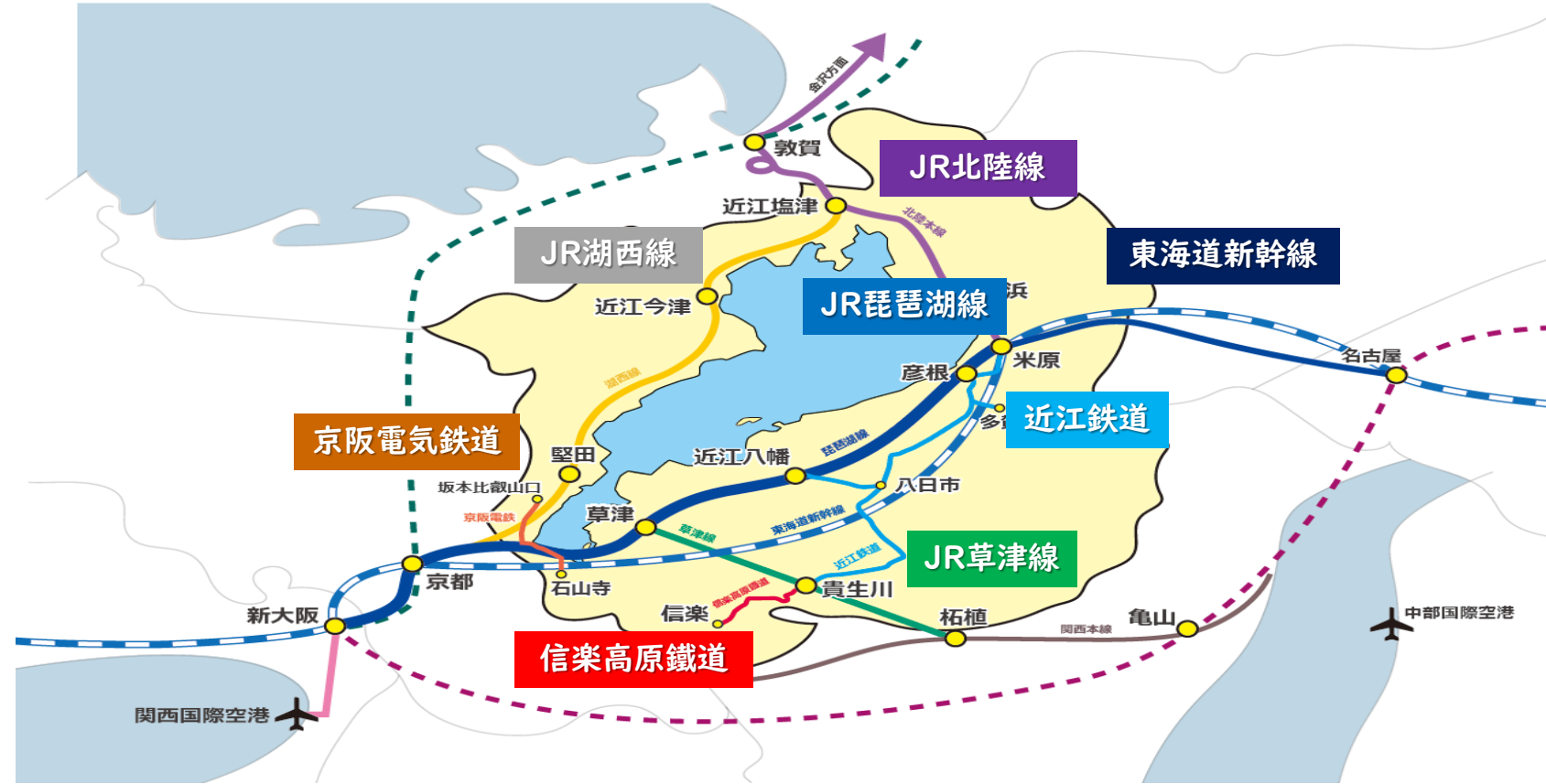
- 「（仮称）滋賀地域交通ビジョンづくり」
- 「移動を支えあい交通を良くするための税制（交通税）の検討推進」

を掲げ、公論熟議の取組をスタートするなど検討を推進

# 滋賀県の公共交通

滋賀から問う

新たな自治のカタチ



## ■ 鉄道

- 新幹線：東海道新幹線（1駅）  
在来線：JR西日本、JR東海（58駅）  
近江鉄道（33駅）  
京阪電車（24駅）  
信楽高原鐵道（6駅）  
坂本ケーブル（4駅）

京都⇔大津 約10分  
大阪⇔大津 約40分

鉄道（JR）で琵琶湖一周すると約3時間。47駅を通ります！

## ■ バス・デマンドタクシー

- ・21社のバス・タクシー事業者が運行
- ・各市町でコミュニティバスを運行

## ■ 船

- ・琵琶湖汽船やオーミマリンが湖上で運行
- ・日本で唯一の淡水湖の有人島沖島には通船が運行

滋賀県は「交通の要衝」として発展

交通 = 文化・経済の発展の源



# 公共交通の役割

滋賀から問う

新たな自治のカタチ

## 公共交通とは

- 民間事業者や自治体等により供給され、旅客運送契約のもとで誰もが利用できる運送サービス
- “地域”公共交通は、乗合バスやタクシー、地域鉄道など、日々の生活に密着した日常的な移動を支えるサービス

個人	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 身体的・精神的健康の増進</li><li>✓ 地域の経済的・社会的活力を生み出す</li><li>✓ 持続可能な社会づくりに寄与</li></ul> など
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

社会	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 外出する行為に伴う身体的活動とコミュニケーションの機会創出</li><li>✓ 教育、福祉、産業、観光など、人々の活動の基盤</li><li>✓ CO<sub>2</sub>ネットゼロの推進</li></ul> など
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



多面的な効果のイメージ

単なる移動手段にとどまらず多面的な効果をもたらす

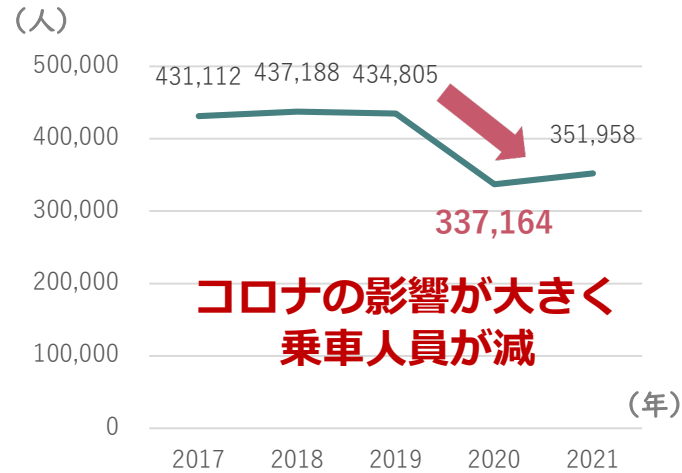
しかし、厳しい現状が…

# 滋賀県の公共交通の現状

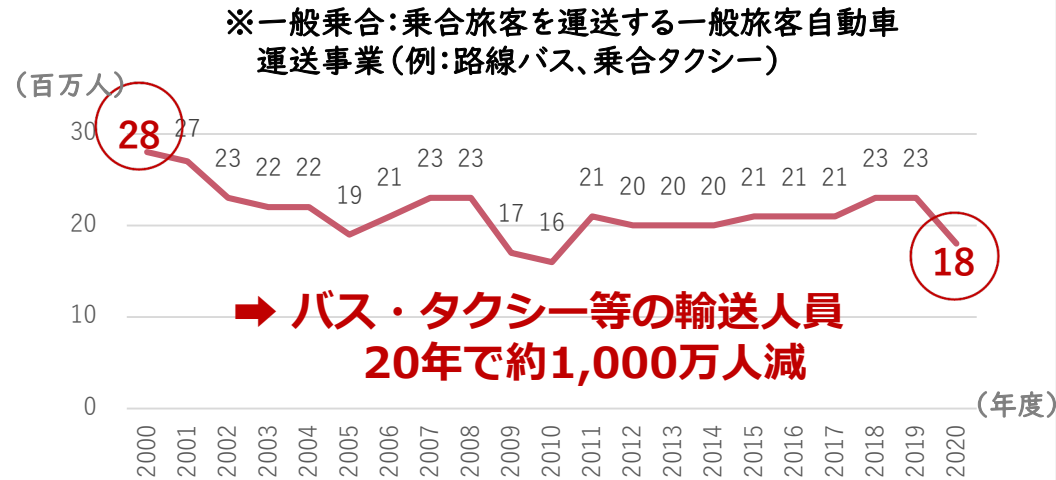
滋賀から問う

新たな自治のカタチ

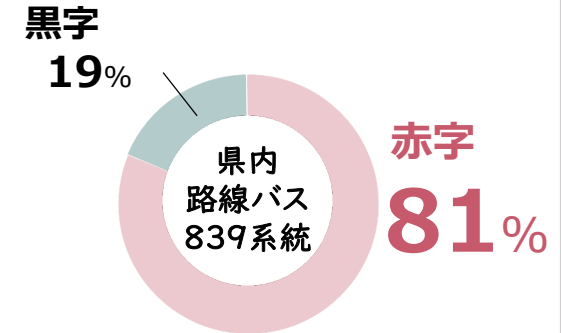
## 鉄道・バス乗車人員（1日平均）推移



## 一般乗合（※）輸送人員数の推移



## 県内路線バス赤字割合



出典:2020年度バス事業者提供資料

## ■ 滋賀県政世論調査 ※毎年、県民約3,000人(無作為)を対象に調査

「第56回滋賀県政世論調査」(2023年)の県政に対する満足度調査の結果

「鉄道やバスなどの公共交通が整っている」と感じない人の割合 ⇒ **66.4%**

2011年の調査以来  
13年連続ワースト...

鉄道やバスなどの公共交通が整っている	66.4%	が感じない
地球温暖化などへの対応が進んでいる	59.4%	が感じない
滋賀県の魅力が発信されている	51.8%	が感じない





## 2. 公共交通の利用促進・活性化

滋賀から問う

新たな自治のカタチ

### 乗りたくなる、乗りたい時に乗れる… 地域交通を支えるため、様々な取組を実施

#### 地域ぐるみで積極的に利用促進!

- ✓ 近江鉄道のにぎわいづくり



近江鉄道「ありがとうフェスタ」

彦根城型1デスマイルチケット  
& 御城印スタンプラリー



#### JR東海の利便性向上

- ✓ 新幹線の最終便（東京→米原）の時間見直し
- ✓ JR東海とJR西日本路線をまたがる定期券のIC利用実現

県・沿線市で構成する協議会で要望を伝えて実現

#### JR西日本との連携

- ✓ 包括的連携協定締結
- ✓ 鉄道利用促進プロジェクトチームの発足

健康推進アプリ「BIWA-TEKU」利用者に駅で武将カードプレゼント など



#### バスなど二次交通の充実

- ✓ コミュニティバス運行情報のGoogle検索が可能に
- ✓ 電話やWEBでの事前予約により、町内移動ができる乗合サービス「チョイソコリゅうおう」等の運営を支援



交通政策を重点テーマと捉え、これまで様々な取組を展開

しかし

交通政策はいわゆる**対症療法**では**持続可能性に課題!**

そしてそれは滋賀県だけの問題ではない

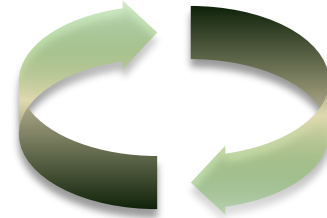
まずは 目指す姿の共有

そして それを支える財源

「滋賀地域交通ビジョン」策定

ビジョンを実現する財源づくり

そもそも公共交通は必要か  
どんな地域交通になるといいか  
車が運転できなくなったら移動はどうか  
公共交通の維持、活性化がもたらす効果は  
それぞれの地域の課題解決には



「税制審議会」での議論

公共交通を維持するにはどんな方法があるか  
便利になるなら料金が高くなっても仕方ないと思うか  
何のためにどこまで負担を許容できるか  
どんな負担のあり方が考えられるか

民公共創・公論熟議

目指す姿（ビジョン）と財源の一体的な検討が必須



# 地域公共交通を支えるための税制の導入可能性調査

滋賀から問う

新たな自治のカタチ

## 滋賀県税制審議会

2019年4月設置

滋賀県の税制について

- 公平・中立・簡素の税の原則および行政需要の実情を踏まえて検証
- 税制のあり方について、専門的な見地から検討



## 滋賀県税制審議会委員名簿

2023年11月現在

(50音順・敬称略)

氏名	所属等
川勝 健志	京都府立大学 公共政策学部教授
齊藤 由里恵	中京大学 経済学部准教授
佐藤 主光 (副会長)	一橋大学大学院 経済学研究科教授
勢一 智子	西南学院大学 法学部教授
松田 有加	滋賀大学 経済学部教授
諸富 徹 (会長)	京都大学大学院 経済学研究科教授

## 第14回 滋賀県税制審議会を経て

### 「地域公共交通を支えるための税制の導入可能性」 について答申

受益と負担を  
セットで議論

「滋賀地域交通ビジョン」の策定において、「県が目指す地域交通の姿」を検討するとともに、その議論の中で、受益と負担のあり方についても丁寧に議論を深める。

参加型税制

新たなビジョンを実現するための財源として、例えば交通税という形でつくることができないか、参加型税制の考え方に立ち、議論を積み重ねていく。

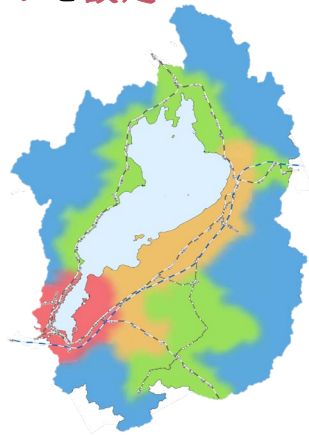
## 「滋賀地域交通ビジョン」骨子

※現ビジョン(2013年度)策定後の環境変化を踏まえて  
2023年度を目途に新たな計画へ見直し

「誰もが、行きたいときに、行きたいところに移動ができる」地域公共交通ネットワーク

### ■ 4つの地域分類イメージを設定

公共交通の利用度合い等に応じた  
地域分類イメージを設定



- ①赤:地域交通の積極的な利用を促す地域
- ②黄:車から地域交通への転換を促す地域
- ③緑:車との使い分けを前提としつつ、交通不便の改善を図る地域
- ④青:車利用を主としつつ、地域交通として最低限のサービスレベルを確保する地域

### ■ 3パターンの目指す姿に応じた費用を試算

「A:現状と同じ地域交通」「B:最低限確保を望む地域交通」「C:理想の地域交通」という3パターンの目指す姿を想定し、それに応じて追加で必要となる年間費用を試算

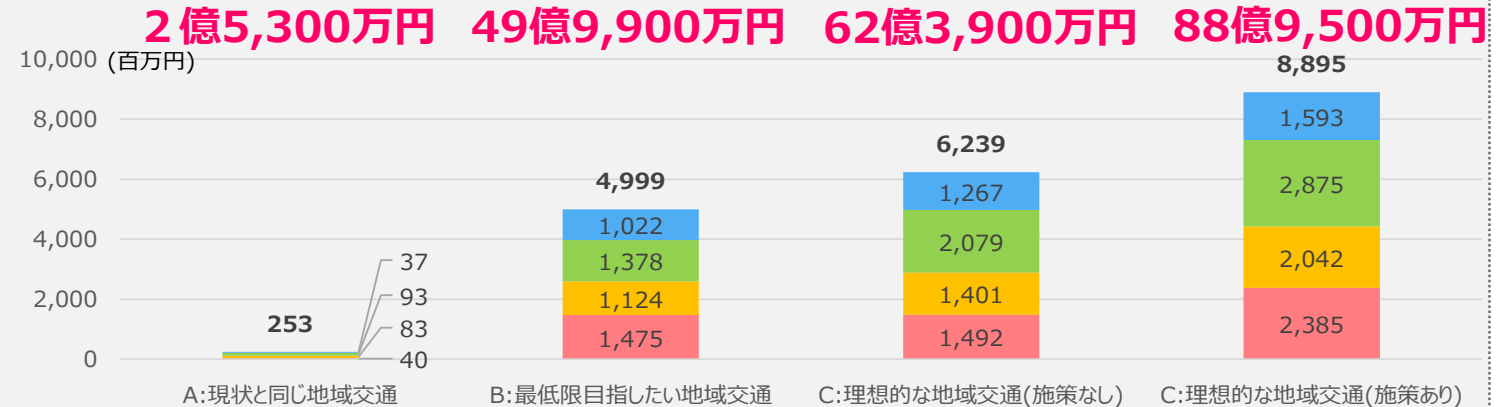
#### 費用(年間)の試算

A: 現状と同じ

B: 最低限確保

C: 理想の地域交通

(理想の運行本数) (理想の運行本数+運賃割引等のサービス)





# 聞かせてください

Q 滋賀県では県内の公共交通の維持・活性化のために新たな負担について議論をしているところですが、滋賀県の新たな負担の議論について知っていましたか

① 知っていた

② 聞いたことがある程度

③ 知らなかった



お手持ちのスマートフォンなどからQRコードを読み取り、回答を送信してください



# 「SHIGA SMART ACCESS 2040s」 Webプロモーション



「目指す地域交通の姿」をわかりやすくお伝えし、みんなで議論するための特設WEBページを開設

滋賀から問う

新たな自治のカタチ

<https://www.shigasmart2040.jp/>



SHIGA  
SMART  
ACCESS  
2040s



2040年代の滋賀の交通の姿をイメージする際のヒントとなるよう動画を制作

# みなさんはどう思いますか？

Q 滋賀県の公共交通の維持・活性化のために新たな負担を求めることに対して  
どのように思いますか

※滋賀県の来訪時等に負担が発生するものとし、あなたが負担する立場にある状況を想定してお答えください

- ① 一部負担しても良いと思う
- ② 一部負担はどちらかと言うとしても良いと思う
- ③ 一部負担はどちらかと言うとしても良いとは思わない
- ④ 一部負担はしても良いとは思わない
- ⑤ 一部負担はしても良いとは思わないが負担はやむを得ない



## 滋賀の公共交通未来アイデア会議

### 滋賀の公共交通

未来アイデア会議



### 1 県民トーク

回答1,200件超

- これからの公共交通を共に考える県民参加型出張トーク
- 担当職員がタブレットを持って、県内20か所以上で対話

役場、病院、商業施設…

将来の公共交通に求めるレベルは？

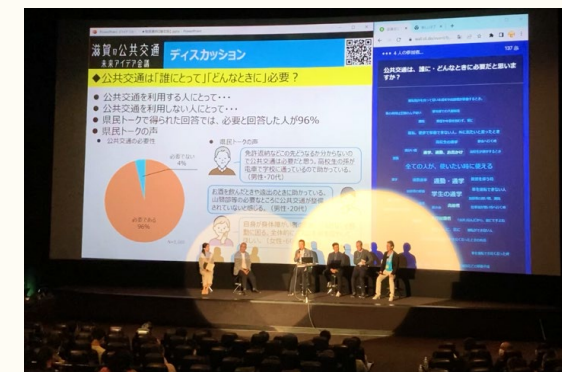


費用負担の方法は？

今の公共交通の問題点は？

### 2 県民フォーラム

- 2023年10月28日にイオンシネマ草津で開催。
- 会場参加252人、ウェブ参加98人の大盛況
- 県民トークの結果も踏まえながら、ディスカッション
- 参加者も意見やアイデアを発信



「公共交通」を語ることは、私たちの暮らし、幸せ、未来を語ること

地域の課題を「財源のあり方」を含めて議論するというのは、まさに自治の本質41



# 最後に

## 地方だからこそ取り組める “より良き自治の追求”

- 滋賀県は、地域の課題は自分たちの力で解決する、そんな気概のある地域。
- まちづくり、より良い社会づくりのために、議論して、共感し、共に創っていく。
- 土台（天・地・人）のある滋賀県で、将来世代のため、未来のため、挑戦を続けています。

公論熟議・挑戦 の滋賀県で、

皆さんも一緒にチャレンジしませんか？

三日月大造



## 県内居住者

### ■公共交通の必要性 ■公共交通の利用状況

必要	96%	ほとんど使わない	29%
----	-----	----------	-----

使わない人も「他の人にとって必要」という声あり

### ■公共交通の維持・活性化に対しあなたができる行動

公共交通を利用する、もっと利用する	39%
現在と行動を変えない	35%
維持・活性化のために新たに負担する	21%

### ■新たな負担が必要となった場合の望ましい負担方法

県民全員に対しての税負担	32%
運賃値上げによる負担	28%

### ■負担する場合の許容額

月 100円増	26%	月 500円増	15%
月 300円増	13%	月 1,000円増	8%

## 県外からの来訪者

### ■滋賀県での公共交通の議論に対する認知度

知っていた	27%
聞いたことがある程度	12%
知らなかった	61%

### ■滋賀県来訪時の新たな費用負担の意向

一部負担しても良いと思う	31%
どちらかと言うと、しても良いと思う	26%
良いとは思わないが、やむを得ない	18%
どちらかと言うと、しても良いとは思わない	6%
一部負担はしても良いとは思わない	19%

※11月初旬時点



## 自由意見

### 県民トーク

### 県民フォーラム

飲酒したときや遠出のときに助かっている。山間部等の必要などところに公共交通が整備されていないと感じる。(20代男性)

今後子どもが通学に使うため、公共交通は必要。運賃を安くしてほしい。(30代男性)

免許返納後に公共交通を利用する予定。バスの本数が少なく不便。ノンステップバスの導入を進めてほしい。新たな負担はしたくない。(70代男性)

まずはライドシェアなど、やれることからやっていくべき。社会保障費や税負担が様々ある中で、さらに増税は無理がある。

公共交通の維持には、都市計画としっかりと連携させる必要がある。都市機能や居住の集積とセットで考える必要があるのでは。

会場からの声も踏まえ、公共交通の充実は必要と実感。やはり皆で負担する仕組みは必要ではないか。

利用しなければサービスが低下し、ますます不便になり、利用者が減る負のスパイラルに陥っている。皆がこれを転換しようと思わなければ変わらない。

交通税＝近江鉄道存続のために思えてしまう。納得できる税金の使い方をされるのかが見えてこないなので、分かりやすく知りたい。

- 通勤や通学で利用している人、車を運転できない人にとってはなくてはならない移動手段
- 今利用していない人も、いざというときのために必要
- ニーズと現状とにギャップがある
- 公共交通を利用しない人も含めた負担のあり方には様々な議論・意見

